

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 76

学校名・団体名	大津市立日吉中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	日吉子どもサミットによる地域ボランティア活動

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動に至る経緯

「日吉子どもサミット」は平成2年に、日吉中学校を中心として坂本小学校、下阪本小学校、雄琴小学校、日吉台小学校、私立比叡山中学校によって結成され、今年で28年目を迎える。当時、日吉中学校は、生徒指導上の問題が頻発し教育課題が山積している学校であった。そこで、リーダー養成を通じて安心して生活できる集団づくりを目指し、平成2年8月に「日吉子どもサミット」が発足した。「人の役に立つこと」「誰もができること」「みんながやっても良かったと思えること」について児童生徒が話し合い、アルミ缶回収活動が始まった。

現在は学期ごとに定例会議を開催し、活動方針の確認、各校の活動の交流を行うほか、アルミ缶回収、4小学校区の環境保全活動にボランティアとして参加している。8月開催のサミットでは、地域の問題について、自治連合会、青少年学区民会議、安全リーダー等地域の方と意見交換を行っている。

2 時期と活動内容

(1) 下阪本クリーン作戦とシジミの放流 平成30年12月1日(土)



下阪本小学校区の琵琶湖湖岸一帯の清掃活動である。近年では「シジミが住める美しい琵琶湖に戻したい」という思いから漁業協同組合と連携してシジミの放流も行っている。日吉子どもサミットとして下阪本小学校児童会、日吉中学校生徒会、各部活動、生徒指導加配教員、管理職等が参加した他、下阪本学区青少年育成学区民会議、下阪本自治連合会、子ども安全リーダー、子ども会指導者連絡協議会、老人クラブおよび一般の方々も参加した。8時30分から約40分間、なぎさ公園坂本城趾湖岸、新唐崎公園周辺の湖岸のごみ拾いおよび清掃を行った。その後、シジミ放流のセレモニーにおいて下阪本小学校児童会による「環境宣言」を行い、湖岸でシジミの放流を行った。閉会セレモニーでは大津市環境部環境施策課長から指導助言を受け、今後の活動のあり方について考えることができた。

(2) 坂本ふるさと大掃除 平成30年12月20日(木)

毎年12月、年末年始の参拝に向け、坂本小学校、日吉中学校、比叡山中学校の子どもと地域の方が校区の日



吉大社参道を掃き清める清掃活動である。今回は、当日に清掃場所近隣に不審者情報が発せられたため中止となった。

(2) 第3回日吉子どもサミット 平成31年1月21日(月)

日吉子どもサミットの児童生徒と自治連合会長、青少年育成学区民会議、安全リーダー、PTA役員等の地域関係者とが各校の取り組みや地域の課題について協議した。8月に開催される第2回日吉子どもサミットで協議される予定であったが、今年度は猛暑により今回に延期された。各校がそれぞれの取り組みを発表した後、子ども達と地域関係者が意見交流を行った。安全マップで危険箇所を確認や挨拶運動について話し合った他、今年度は災害発生時の避難場所や方法、学校が避難場所になった場合の子どもの役割について地域の方々と熱心に交流する姿が見られた。児童生徒から



らは避難所設置や物資運搬の手伝いに加えて、「災害時は大人が復旧で忙しいので幼い子どもがほったらかしにされるから私たちが世話をしないといけない」等の意見が出された。



(3) 雄琴ヨシ刈りとフナの放流 平成31年1月27日(日)



雄琴小学校区の琵琶湖湖岸のヨシを刈り取り焼く活動で、現在「湖辺ルネサンス～大津のヨシ作戦～」として大津市の恒例行事にもなっている。日吉子供サミットも雄琴青少年学区民会議、雄琴小学校PTAと協力し琵琶湖の生態系を守るフナの放流活動を通して水質改善に取り組んでいる。今年度は日吉子どもサミットから雄琴小学校児童会の他に日吉中学校の生徒会、各部活動、一般の生徒らが参加した。北部会場(アクティバ)と南部会場(琵琶湖グランドホテル

湖岸)においてヨシ刈りを行った後、北側砂浜においてセレモニーを行い「環境宣言」を発表した後、フナの稚魚の放流を行った。活動の締めくくりとして大津市環境政策課長から指導助言をいただいた。今後も外来種が増えることが予想される中、ヨシ刈りやフナの放流の効果を検証し、これからの琵琶湖の環境保全活動について再考する時期に来ていることを教えられた。

(4) 日吉台花の街づくり6月9日(土)、9月8日(土)、11月10日(土)



日吉台小学校区内の花壇に児童生徒と地域の方々が協力して花を植える活動である。日吉台小学校出身の中学生、日吉台小学校児童の他、本校の部活動が参加して花植や除草を行った。

3 子ども達への効果

いずれも子ども発信により地域の大人を巻き込んでいるところに大きな意味がある。活動を通して子ども達は大人と直接触れあい、地域人の気概や責任感を肌で感じ取ることができる。自分たちは地域の後継者として期待されているという自覚が芽生えてくる。次に、環境活動に参加することで、今まで気づかなかった地域の良さを再発見できる。これは地域に残る歴史的遺産や数々の伝統行事に改めて興味や関心を持つきっかけとなっている。そして、最も子どもを意欲的にするのは、一生懸命取り組んだことに対する地域の方からの賞賛である。自分は地域に役立っていると感じられる体験を通して、地域への愛着と児童生徒一人ひとりの自己有能感を育てることは集団づくりや生徒指導に大きな効果がある。

